

= 勝負はこれから =

5月上旬には鹿児島県、奄美地方が梅雨入りした。6月は九州から四国、本州へと梅雨入りするだろう。願わくは、その雨がすべての厄を流してくれないものか…。

しかし、当面、この話題からは抜け出せそうにない、新型コロナウイルスの感染問題。政府は4月7日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都府県に緊急事態宣言を発出し、4月16日に対象を全国に拡大した。あれから、約一ヵ月半、5月14日に39県で緊急事態宣言を解除、5月21日に大阪・京都・兵庫の3府県、そして、5月25日には、首都圏1都3県と北海道と続き、とりあえず全面解除となった。

この間の「すったもんだ」を横におけば、国、地方自治体と国民が同じ目的をもって取り組んできた結果であろう。そして、何よりも見えない感染リスクと闘いながら、命を守り、社会と生活を支え続けてくれている多くの皆さんの献身的な対応と、自粛に努力された皆さんの取り組みの成果である。

他方、コロナ禍の影響は、経済運営をはじめ、働き方や日常生活にも新たな課題を投げかけている。各企業では、「ニューノーマル（新常态）」や「新しい生活様式」の提言を受け、在宅勤務の活用、出張や会議もオンラインで、また、集会やイベントは実施やむを得ない場合、感染防止対策を前提に小規模で行うなどの新たな働き方を推進する検討がなされている。

こうした動きは、組合運動にも投げかけられた課題として受け止めなければならない。緊急事態宣言下、とある業種別組合のトップからメールをいただいた。「国難であるコロナ禍、自粛、在宅勤務を2ヶ月近く経験して多くを学び、活動の質を確保しつつ、組合自体がいかに現場に寄り添った働き方改革の実践と効率よく質を高めるか…。また、各現地でのオルグ活動ができない状況であります。知恵と工夫で何とか、、と色々考えております。」ありがたい一言である。場所は違えど労働運動に携わるものとして、あらためて大切な熱い思いをいただいた。

人と人、組織と組織のつながりを基本とする組合活動において、どのような方策があるのか、連合・産別のみならず、第一線の組合員を抱える単組・支部運営に関わる大事な課題であり、新たな視点で互いの知恵だし・力合わせをしていかなければならない。と同時に、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた対応は、これからこそが正念場である。

中小零細企業支援や産業・企業の危機的状況の打破と雇用確保、そして医療体制の充実など経済対策に向けた要請行動をはじめ、日常生活においては、何を、どこまで、どのように自粛するのか、各自治体の示すロードマップを参考にしながら、私たちの努力の日々は当面続く。

「押忍（おっす）」という言葉をご存じだろうか。空手同好会出身の私はよく使ってきたが、一般的には挨拶として用いられる「オッス」。「おはようございます」が略されたもので、掛け声風に用い「オッス」となったらしいが、本来は、武道の精神である「自我を抑え我慢する」という意味の「押して忍ぶ」が当てられ、漢字で「押忍」と表記しているものである。言葉にするのは、こっぴどかしいが、心で唱えるのも一考、かもしれない。

まもなく梅雨が訪れる。いつ、どこで発生するかわからない自然災害。土砂崩れ、川の氾濫、家屋の浸水などから我が身と家族の命を守る危機管理、ぜひ自分ごととして備えてほしい。また、梅雨の時期は、体調も崩しやすい。頭痛、目まい、倦怠感、体の冷え、肩こりや腰痛など…。普段の生活の中で気を付けておかないと梅雨の間ずっと悩まされるかもしれない、要注意である。

そして、災害防止。足もと、9人もの尊い人生が失われた。働き盛りの40代、50代、入社して間もない19歳の命まで。湿度高く、蒸し蒸しとなるこの季節。互いの注意喚起で防げる災害も多い。労働災害に関わる、すべての方の心の痛みを我が身に置き換え、誰一人、二度とそんな思いはさせまい。

体調管理に努め、災害防止を徹底し、新型コロナウイルスとの闘い…勝負はこれから。

ご安全に

2020年6月1日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一